

食べて復興応援！能登応援フェア開催

4月29日から5月6日まで、道の駅ゆ〜ぱるのじりで昨年8月以来、2度目となる「能登応援フェア」が開催されました。能登ワインや能登銘菓「能登のいも」などが販売され、多くの人々が来場。売り上げの一部は、能登復興のための支援金として活用されます。



馬頭観世音祭で畜産業発展を祈願

5月8日、小林地域家畜市場内の保食神社で馬頭観世音祭が開かれました。畜産関係者など約160人が参加。尊い命を捧げた家畜に感謝し、家畜の無病息災と家内安全を祈願。馬頭観世音祭は古くから続く伝統行事で、市内各地でも行われています。



のじりローズフェスタ2年ぶりに開催

5月11日、道の駅ゆ〜ぱるのじりに隣接する大塚原バラ園でのじりばら愛好会（大浦正人会長）主催の「のじりローズフェスタ」が開かれました。園内は住民が丹精込めて育てた16品種約40株のバラで色鮮やかに包まれ、多くの来場者でにぎわいました。



南小児童がななつ星 in 九州を出迎え

5月15日、豪華寝台列車クルーズトレイン「ななつ星 in 九州」が小林駅を通過しました。小林駅横の中央ふれあい広場では南小の1～3年生約140人が、手や旗を振って列車を出迎え。6月5日と12日にも運行予定ですので、ぜひ、見に来てください。



「多くの人に味わってほしい」今年もメロン・マンゴーフェア実施

5月12日、メロン・マンゴーフェア実行委員会（下村孝一委員長）が「めろめろメロン」と「太陽のタマゴ」を市長に贈呈しました。下村委員長は「2月、3月の長雨の影響でメロン・マンゴー共に生育の遅れが見られたが、生産者の努力のおかげで今年もおいしいものができた。ぜひ多くの人に味わってほしい」と話していました。



今年のメロン・マンゴーフェアは4月中旬から5月初旬に電話やインターネットなどで注文を受け付けし、合わせて9,100ケースを売り上げました

「にしもろ防災フェスタ」で学ぶ災害発生時に私たちができること

5月17日、市地域防災センターで小林青年会議所（小野将理事長）主催の「にしもろ防災フェスタ」が開催されました。小林西高校吹奏楽部の演奏をはじめ、自衛隊による炊き出しのふるまいやAED講習などが催されたほか、会場内では普段見ることが少ない災害対応車の展示なども行われ、多くの家族連れでにぎわいました。



来場者は災害時などに役立つロープワーク体験や水消火器を使った消火体験などを通して、自分でできる防災への取り組みについて学びました

能登半島地震の被災地を支援する市民団体が手作り石けんを発送

5月、能登半島地震で被災した地域を支援しようと、小林市家庭菜園研究会（嶋岡豪士会長）が手作り石けん約700個を能登町と珠洲市に送りました。石けんは家庭から出た廃油などを原料に作られたもの。嶋岡会長は「会員と相談し、私たちにできる支援をしようと決めた。少しでも復興の後押しになればうれしい」と話しました。



石けんは今年の1月ごろから作り始め、3カ月ほどかけて約700個が完成。会員同士が協力しながら1個ずつ形をきれいに整え、包装しました

誰一人取り残されない社会を「にしもろこども支援会議」設立

5月5日の子どもの日、KITTO小林で「にしもろこども支援会議」の設立総会が開かれました。支援会議は西諸2市1町の行政や社会福祉法人、NPO法人、学校など23団体から組織され、小林ロータリークラブの呼びかけで集まったもの。子どもたちの不登校や貧困など、子どもに関する諸課題の解決に向けた取り組みを進めていきます。



総会で会長となった佐土原 誠さんは「西諸地区の子どもたちが今も未来も幸せであるために、それぞれの団体間での情報交換を進めたい」と話しました

小林ハンドボールスポーツ少年団県代表として親善大会に挑む

4月18日、小林ハンドボールスポーツ少年団が、昨年度の県新人大会優勝などの実績が認められ、熊本県で行われる第19回オムロンカップ小学生親善ハンドボール大会に県代表として出場することを報告しました。週4日、練習に取り組み技術を磨く少年団。新チームとして初めての大会ですが、チーム一丸となり上位を目指します。



主将を務める齋藤凜紗さん（小林小6年）は「昨年は3位で終わってしまったので、今年は優勝目指して頑張りたい」と意気込みを話していました

古希同窓会が野尻中学校に寄付

4月17日、野尻中学校を昭和45年に卒業した野尻中学校古希同窓会が同校に寄付金を贈りました。当日は同窓会を代表し、会長の行徳喜一さんら3人が母校を訪れ、原田康徳校長に寄付を贈呈。行徳さんは「後輩たちのために使ってほしい」と話しました。



ネパール親善交流使節団との交流授業

4月25日、野尻小学校でネパール親善交流使節団との交流授業が行われました。これはネパールの教育や観光関係者ら4人が市内を中心とした視察に合わせて行われたもの。授業では英語での自己紹介や使節団への質問などを通じて交流を深めました。

